

# 霞ヶ浦導水工事事務所における 広報の取り組みについて

前田 紳太郎<sup>1</sup>

<sup>1</sup>関東地方整備局 霞ヶ浦導水工事事務所 調査設計課 (〒300-0812茨城県土浦市下高津2-1-3)

霞ヶ浦導水工事事務所では、以前から平日に開催している施設見学に加え、2017年1月より、より多くの方々に霞ヶ浦導水事業について理解していただくため、休日に特別見学会を開催している。

本稿では、特別見学会の開催にあたり、開催内容や周知の方法の検討において工夫した点や、成果について報告する。

キーワード 霞ヶ浦導水事業、広報、見学会、情報発信

## 1. はじめに

霞ヶ浦導水事業は、那珂川、霞ヶ浦および利根川をつなぐ広範囲にわたる事業である。

那珂川、霞ヶ浦および利根川は、茨城県をはじめ周辺地域の水資源の安定的かつ広域的な供給等に重要な役割を果たし、流域の産業・経済の発展に寄与してきた。

しかし、産業の発展や都市化の進展によって、霞ヶ浦や水戸市を流れる桜川等の水質汚濁、那珂川や利根川における渇水の発生など、さまざまな問題が発生するようになり、流域全体で水質浄化、安定した水資源の確保に向けた取り組みが進められ、一定の効果は上げているものの、まだまだ課題解決には至っていない。

霞ヶ浦導水事業は、上流ダム群、中下流域の貯水池、湖沼開発、河口堰等とあわせ、限られた水資源を有効活用するため、流況調整河川として、流況の異なる那珂川、霞ヶ浦、利根川を地下水路で結び、水のネットワークを形成するもの(図-1)であり、時期に応じて相互の導送

水を行うことにより、河川及び湖沼の水質改善を図るとともに、それぞれの河川の流況を改善し、更に新規に都市用水を開発することを目的としている。

## 2. 広報活動の背景と目的

霞ヶ浦導水事業は、2010年9月からダム事業検証を行い、その手続きを経て2014年8月に「事業継続」が決定し、その後2016年に河川整備計画や事業計画等の法定手続きも無事終了した。この間、事業が止まっていたため、霞ヶ浦導水事業の認知度が低減していた。現在、工事再開に向けた準備を行っていることもあり、事業について一般の方々に丁寧な説明を行い、広く事業を理解してもらうことが重要である。

霞ヶ浦導水工事事務所の広報展開は、霞ヶ浦導水事業を知らない方々を対象に、以下の3つのステップで広報を行い、事業への理解を深めてもらうことを目的としている。

ステップ1 まずは知ってもらう

ステップ2 理解してもらう

ステップ3 応援してもらう

## 3. 特別見学会の概要

霞ヶ浦導水工事事務所では、以前から平日に施設見学を開催してきたが、受け身の広報のため、周知があまりうまくいっていなかった。そこで、ステップ2の取り組みとして、2017年1月からより多くの方々に事業を理解してもらうために、事務所から積極的に発信する形で、休日に特別見学会を開催している。これまでに8回、9日間の開催を実施しており、延べ563人の方々に参加して頂いた。



図-1 霞ヶ浦導水事業位置図

表-1に各開催の開催日時と開催内容を示す。那珂機場の見学では、事業概要の説明、ポンプおよび沈砂池の見学を行い、桜機場の見学では、放流口、立坑および地下トンネルの見学を行った。また、第6回、第7回では水質調査体験を行った。

また、開催の周知にあたっては、主にチラシの配布、HPへのチラシの掲載、記者発表を行った。表-2に各回の周知方法を示す。

#### 4. 開催にあたっての検討

特別見学会の開催に向けた検討にあたっては、事務所内に広報プロジェクトチーム（広報PT）を設け、職員が知恵を出し合っている。職員自らが広報展開を検討することで、職員の意識向上とプレゼンテーション能力の向上に役立っている。

広報PTを通じた検討内容と工夫した点を以下に記す。

##### (1) 開催内容の検討

第1回から第5回開催までは職員が先導し、那珂機場と桜機場を説明しながら見て回るという形を取っていた。この形式のメリットとして、説明に必要な人員が少なく

表-1 開催内容

開催回数	開催日時	開催内容
1	1月29日 AM,PM	那珂機場・桜機場見学
2	2月25日 AM	那珂機場・桜機場見学
3	3月25日 AM,PM	那珂機場・桜機場見学
4	5月27日 AM,PM	那珂機場・桜機場見学
5	6月24日 AM,PM	那珂機場・桜機場見学
6	7月22日 AM,PM	那珂機場・桜機場見学、水質調査体験
7	8月21日 AM,PM	那珂機場・桜機場見学、水質調査体験
	8月22日 AM,PM	
8	12月23日 AM,PM	那珂機場見学

表-2 周知方法

開催回数	募集人数	申込人数	参加人数	周知方法	備考
1	50	59	52	チラシの配布(近隣事務所、自治体、道の駅、関係団体)、HP(事務所、近隣事務所、本局facebook、NPO水辺基盤協会facebook)、記者発表	
2	25	40	24	チラシの配布(近隣事務所、自治体、道の駅、関係団体)、HP(事務所、近隣事務所、本局facebook、土木学会facebook)、記者発表	
3	50	77	48	チラシの配布(近隣事務所、自治体、道の駅、関係団体)、HP(事務所、近隣事務所、本局facebook、土木学会facebook)、記者発表	
4	50	40	33	HP(事務所、近隣事務所、本局facebook、土木学会facebook)、記者発表	
5	50	45	39	HP(事務所、近隣事務所、本局facebook、土木学会facebook)、記者発表	
6	120	117	138(32)	チラシの配布(水戸市小中学校)、HP(事務所、近隣事務所、茨城県、本局facebook、土木学会facebook)、記者発表	括弧内は当日参加(内数)
7	100	89	71	チラシの配布(水戸市、茨城県、小美玉市、石岡市、かすみがうら市小学校)、HP(事務所、近隣事務所、本局facebook、土木学会facebook)、記者発表	
8	200	378	158	チラシの配布(水戸市、茨城県、小美玉市、石岡市、かすみがうら市、土浦市小学校)、HP(事務所、近隣事務所、茨城県、本局facebook、土木学会facebook)	

済むことと、時間配分等をコントロールしやすいという点があるが、デメリットとして、見学者が自由に見て回れないという点があった。第5回までの参加者に回答いただいたアンケート結果からも、「見学時間が短い」、「パネル展示を見る時間が短かった」といった意見があった。そこで、第6回開催の検討にあたり工夫した点として、参加者が自由に見て回れる形とし、各コーナーに職員を配置し、説明を行った。

ただし、那珂機場の沈砂池と桜機場の見学については安全面の理由から職員が案内する形とした。

また、ターゲットの設定にあたっての工夫点として、第5回までは参加者のほとんどが大人であったが(図-2)、第6回と第7回では開催時期が夏休みということもあり、親子連れをターゲットとした。親子連れを呼び込むために、子供にも興味を持ってもらえるよう、新たに水質調査体験を行った。水質調査体験は霞ヶ浦導水事業の仕組みを理解してもらうことと、環境への意識を持ってもらうことを目的として、下記の内容で実施した。

- ・水質の悪化によりアオコが発生している桜川と千波湖の水質を調べてもらい、桜川と千波湖の現状を知ってもらう。
- ・那珂川の水質を調べてもらい、那珂川の水がきれいであることと、霞ヶ浦導水事業によって、きれいな那珂川の水を桜川と千波湖に入れることで桜川と千波湖がきれいになることを知ってもらう。
- ・水道水と、醤油や牛乳を1滴垂らした水道水の水質を比較し、些細なことで水質が悪くなることを知ってもらい、環境への意識を持ってもらう。

また、第8回においては開催時期がクリスマスに近いため、クリスマスにちなんだ演出として、LED投光器を使った光の演出や、職員がサンタクロースの帽子を被るなど、楽しみながら学んでもらえるよう工夫した。

また、第7回まで特別見学会の目玉として取り上げて

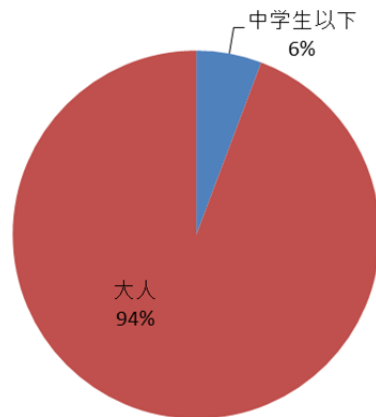


図-2 参加者の構成 (第5回まで)

いた桜機場のトンネル見学については、第8回ではトンネルに入れなくなったため、代わり目玉となるものを検討する必要があった。第6回と第7回でのアンケートで、「面白かった、ためになったコーナー」を調査したところ、ポンプの見学が一番不評であった(表-3)。

この原因は、ポンプの見学では地上部のモーターしか見せておらず、さらに、高く離れたところからしか見せていなかったためであると考え、第8回では地下のポンプ本体を間近で見られるようにした。

## (2) 周知方法の検討

第1回開催から第3回開催までは自治体等へのチラシの配布とHPでの周知、記者発表を行っていたが、第4回と第5回の開催ではチラシの効果を把握するため、HPでの周知と記者発表のみとした。その結果、第3回開催までは募集人数の枠を超える申し込みがあったが、第4回と第5

表-3 面白かった、ためになったコーナー  
(第6回～第7回)

事業概要	ポンプ	沈砂池	水質調査	トンネル
46%	41%	68%	59%	85%

図-3 第5回チラシ(左:表面、右:裏面)



図-4 第6回チラシ(左:表面、右:裏面)



回の開催では募集人数の枠に達しなかった。これにより、チラシの効果が大きいことが分かり、以降の開催ではチラシの配布を再び行うこととした。また、第6回については親子連れを呼び込むために水戸市内の小中学校へのチラシの配布を行った。その後、より広範囲の方々に特別見学会を知ってもらうために、第7回ではチラシの配布を水戸市、茨城町、小美玉市、石岡市、かすみがうら市内の小中学校に変更し、第8回では土浦市を追加した。

また、第5回まで使用していたチラシ(図-3)は、見学会の内容が漠然としか伝わらなく、分かりにくいものであった。前述したように参加者の大半は大人となっていた理由はチラシのデザインと考え、第6回以降は親子連れを呼び込むために、第5回までのチラシの裏面がFAXの申し込み用紙となっていたものを、第6回からは見どころや内容を紹介することで、子供にも分かりやすく、興味を持ってもらえるチラシとした(図-4)。

## 5. 開催の成果

参加者へのアンケートの結果から、霞ヶ浦導水事業を知らない人が57%(308人)、霞ヶ浦導水関連の施設を見たことがない人が93%(500人)おり、これらの方々に対し施設を見て頂き、説明を行ったことで事業について理解して頂いた。また、第6回と第7回に新たな取り組みとして行った水質調査体験については、表-3に示したように59%の方々が面白かった、ためになったと回答しており、概ね好評であった。水質調査体験についての意見として、「千波湖の水質が悪いのがよく分かった」、「環境を考えるよいきっかけ作りになる」などといった意見が寄せられ、目的を達成することができた。

また、第8回でのポンプ本体の見学については、第8回での「面白かった、ためになったコーナー」のアンケート結果(表-4)から、第6回と第7回で41%だったのに対し、第8回では68%まで上昇しており、トンネルに替わる目玉とまではならなかったものの、大幅に改善された。

学校へのチラシの配布については、第6回から第8回でのアンケート「開催を何で知ったか」の結果(表-5)から、77%もの方々がチラシによって開催を知っていた。また、親子連れをターゲットとしたことにより、参加者の構成は図-5に示すように、中学生以下の子供が43%となり、子供の比率が大きく上昇したほか、表-2に示した

表-4 面白かった、ためになったコーナー(第8回)

事業概要	ポンプ	沈砂池
38%	68%	74%

表-5 開催を何で知ったか(第5回～第8回)

チラシ	新聞	HP	SNS	その他
77%	5%	11%	2%	5%

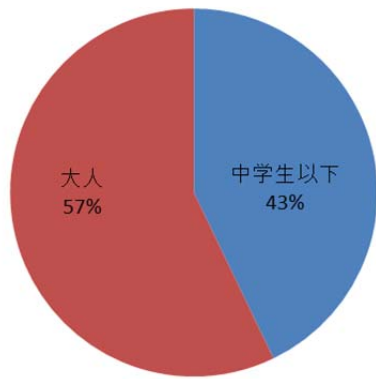


図-5 参加者構成（第6回～第8回）

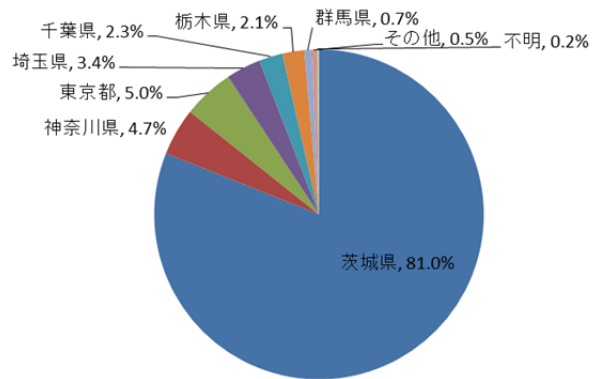


図-6 参加者の住まい



写真-1 水質調査体験の状況（第6回）

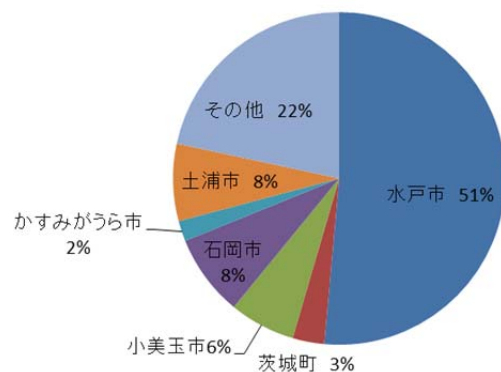


図-7 参加者の住まい（茨城県内）



写真-2 ポンプ本体の見学状況（第8回）

ように、申込み人数自体もチラシの配布を行わなかった第4回、第5回に比べて倍以上となり、学校へのチラシの配布の効果は非常に大きかった。

## 6. 今後の課題

アンケートでは「那珂機場以外の施設も見てみたい」、「工事の状況も見てみたい」、「動いている様子も見てみたい」といった意見があった。これまで開催した特別見学会は、水戸市にある那珂機場と桜機場で開催していたため、参加者の大半が水戸市民であった（表-6,7）。今後は土浦市や石岡市方面等でも

開催し、那珂機場以外の施設も公開することで、より多くの方々に事業を理解してもらうことが必要である。

また、工事が再開した際には、進捗に応じて工事の状況や稼働状況を見てもらい、事業について更に深く理解してもらうことが必要である。

## 7. 今後の方針

今後も引き続き広報PTを通じて広報展開を検討し、職員の意識向上とプレゼンテーション能力の向上を目指す。

さらに多くの方々に事業を理解して頂けるよう、今後も引き続き特別見学会を開催する。また、那珂機場以外での開催内容の検討と、工事が再開された際の、進捗に応じた広報の方法を検討する。

また、2018年10月には霞ヶ浦において世界湖沼会議が開催され、霞ヶ浦への注目が集まることが考えられることから霞ヶ浦導水事業をアピールする大きなチャンスである。また、世界湖沼会議に関連したイベントも予定されていることから、他機関が開催するイベントにおいても効果的な広報の方法を検討していく。